誰も偉そうなことは言えません
法務大臣の辞任
死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）
東京都荒川区南千住1-59-6-302
http://sobanokai.my.coocan.jp/

9月の内閣改造で就任したばかりの河井克行法務大臣（衆院広島3区選出）が、妻の参議院選挙での公職選挙法違反が問題にされ、辞任しました。

過去にも短い期間で辞任した法務大臣は少なくありません。

近年では２０１４年に松島みどりさん（衆院東京14区選出）が選挙民に「うちわ」を配っていたことなどが問題になり辞任しました。（ちなみに今は衆議院法務委員長です）

２０１０年に民主党政権で法相に就任した柳田稔さん（参院広島選挙区選出）は「法務大臣は『個別の事案についてはお答えを差し控えます』と『法と証拠に基づいて適切にやっております』という2つだけ覚えておけばいいんです」といった失言（本音？）をして辞任しました。

当時は野党だった自民党の河井克行さんは、その時「法相にあるまじき発言だ」と追及していたのでした。

就任早々「不祥事」によって辞任を迫られたことで、彼らは死刑を執行しなかった法務大臣として名を残すことになりました。

★

河井前法相は、就任時にはこんなコメントをしていました。

「極めて悪質で凶悪な犯罪について、国民の多くが死刑はやむを得ないと考えている。著しく重大な犯罪を犯した者には死刑を科すこともやむを得ない。死刑制度の廃止は適当ではない。裁判所の判断を尊重し、法の規定に従い慎重にも慎重の上に、厳正対処する」。

そんな大見えを切っていた手前もあって、今回はさっさと辞任されたのでしょうか。

★

後任の森雅子法相は、地元の新聞「福島民報」で、死刑制度への見解を問われて「**死刑は人の生命を奪う極めて重大な刑罰だ。その執行に際しては慎重な態度で臨む必要がある。死刑制度の存廃については、我が国の刑事司法制度の根幹に関わる重要な問題のため、国民世論に十分に配慮しつつ、社会における正義の実現などさまざまな観点から慎重に検討すべき問題と考えている**」と答えています。

河井前法相と比べると、死刑執行への慎重な姿勢、死刑制度を慎重に考える姿勢が示されているように思われますがどうでしょうか。今だけかもしれませんが。

★

そんな元大臣たちを擁護するわけではありませんが、人間は何かと間違いもすれば、様々な「罪」を犯してしまうものです。そして、そうしたことの積み重なりで、「凶悪」と呼ばれるような事件も起こされているのかもしれません。

法務大臣たちは辞任してもいくらでもやり直せるのでしょう。だからさっさと辞任できます。でも「生命」のやり直しはできません。だからこそ、「殺人」が許せない犯罪だというのであれば、「死刑」もまた許せない刑罰だとは考えられませんか。（J）

死刑囚表現展 2019

2019年12月6日～8日
松本治一郎記念会館
5階会議室（東京都中央区入船1-7-1）

入場無料
12月6日（金）13時～19時
7日（土）11時～19時
8日（日）11時～17時

毎年、死刑囚から募集した文芸・絵画作品を紹介してきた「響かせあおう死刑廃止の声」集会が台風により中止になり、緊急に企画された展示会です。どうぞご覧ください。

No. 264/2019/11/16/300